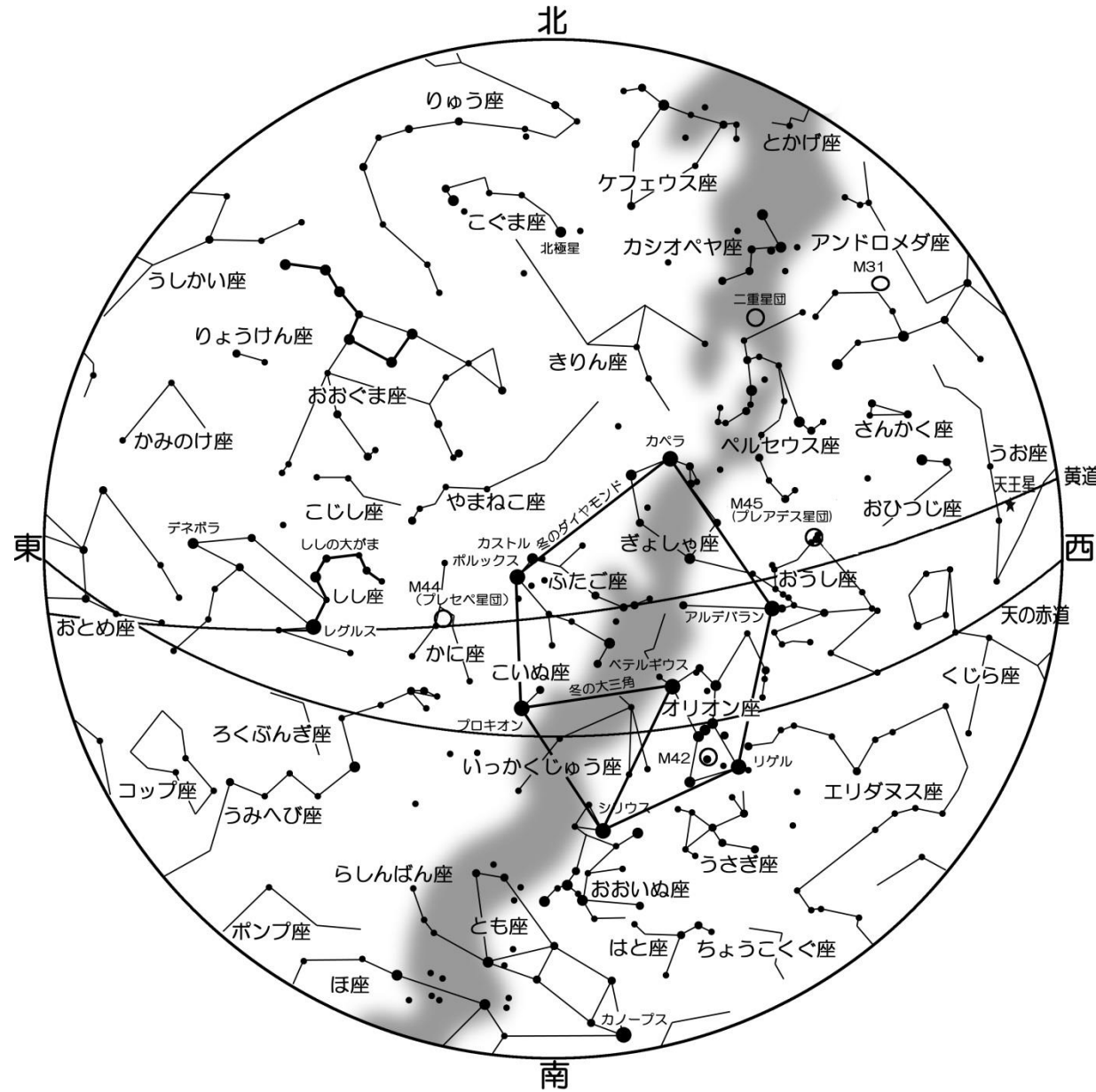


# 平成30年 3月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



## ★3月の星空案内

3月の午後8時頃は、南から南西の空にかけて、オリオン座が見えています。オリオン座は等間隔に並んだ3つの星、“三つ星”が目印です。その左上で赤っぽく輝く1等星がベテルギウス、右下で青白っぽく輝く1等星がリゲルです。“三つ星”を北西にのぼしていくと、オレンジ色っぽく輝くおうし座の1等星アルデバランが見つかります。反対に南東にのぼしていくと、全天で最も明るく輝くおおいぬ座の1等星シリウスが見つかります。そして、オリオン座の東側には、こいぬ座の1等星プロキオンがあります。このプロキオン、シリウス、ベテルギウスを結んでできる三角形を“冬の大三角”といい、冬の星座探しのよい目印になります。オリオン座の北側にやや黄色っぽく輝く星が、ぎょしゃ座の1等星カペラです。その東側には2つ並んだ明るい星が目印のふたご座があり、左側の明るい星が1等星のポルックス、右側が2等星のカストルです。そして、ぎょしゃ座のカペラを頂点にして、ポルックス、プロキオン、シリウス、リゲル、アルデバランの6つの星を結んでできる大きな六角形を“冬のダイヤモンド”といいます。

東の空には、春の星座たちが見えてきました。まだまだ寒さが厳しいですが、暖かい格好をして、もうじき見ごろを終えようとしている冬の星や星座たちを楽しんでください。

### < 現在見える惑星 >

水星(0.1等前後):みずがめ→うお座付近	中旬、日没後、西の低空で見える。 (上旬や下旬は、観測に適さない。)
金星(-3.9等前後):みずがめ→うお座付近	日没後、西の低空で輝く。
火星(0.6等前後):へびつかい→いて座付近	明け方、南東の空で輝く。
木星(-2.2等前後):てんびん座付近	未明、南東の空で輝く。
土星(0.5等前後):いて座付近	明け方、南東の空で輝く。

### 注目の天文現象～水星と宵の明星の金星を見よう!～

太陽系で1番内側をまわっている水星は、いつも太陽の近くにあるため、観察するのが難しい惑星です。地動説で有名な、あのコペルニクスでさえ見ることができなかったほどです。水星は、3月16日に※東方最大離角となるため、日の入り頃の西の空で、今年一番の観察のチャンスとなります。水星の近くには、3月に入りやっと高度が高くなってきた“宵の明星”の金星が輝いて、水星をさがすいい目印になることでしょう。19日には月齢 1.6 のとても細い月も近くにやってくるので、さらに目を引く眺めとなるでしょう。

※東方最大離角とは 水星は地球より内側をまわっているため、太陽-地球-水星がつくる限界の角度で地球から見て水星が太陽の東側にあるときをいいます。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
2	金	○満月 (09:51)	19	月	夕方の空で月、水星、金星が見られる
9	金	☾下弦 (20:20)	21	水	春分 (01:15) 久留米日出 06:21, 日入 18:30
11	日	明けの空で火星・木星・土星・月が見られる	25	日	☽上弦 (00:35)
17	土	●新月 (22:12)	31	土	○満月 (21:37)